

## ● 第三章

一三・お水<sup>くぐ</sup>潜<sup>くぐ</sup>らせのヨハネの教え

参照 マタイ 3:1-12、マルコ 1:2-8、ヨハネ 1

19  
128

さて、時移り、代替わり、

1 「大都ローマにて遍<sup>おも</sup>く天下<sup>あまた</sup>を知ろしめす」 皇帝<sup>おのみかど</sup>  
 テイベリオ陛下<sup>へいか</sup>の御代<sup>みよ</sup>の十五年目、ポンテリオ・ピ  
 ラト卿<sup>きやう</sup>が「皇帝天領」ユダヤの代官、ヘロデ「ア  
 ンティパス」殿<sup>きみ</sup>がガリラヤの太守、「①その異母兄  
 弟の」フィリッポ殿<sup>きみ</sup>がイトウリヤとトラコニテの太  
 守、ルサニア殿<sup>きみ</sup>がアビレネの太守、<sup>2</sup>そして②ハン  
 ナ殿とカヤファ殿<sup>きみ</sup>が大祭司<sup>おおかんなぎ</sup>にてありたるとき、神さ  
 まの御言葉<sup>みことば</sup>が「しなごかる」<sup>あれの</sup>荒野<sup>あれの</sup>においてザカリア  
 の子ヨハネに降<sup>くだ</sup>つてこざる。

3 ヨハネはヨルダン川の畔<sup>はた</sup>に姿を現<sup>あらわ</sup>し、かく

語り始めてこざる。

「お水を潜<sup>くぐ</sup>つて心を切り換え、罪科<sup>つみとが</sup>に縛<sup>しば</sup>られたるそ  
 の心をば解き放て！」

4 こはまさに、尊<sup>たつ</sup>き書き物にある御言<sup>みこと</sup>持ちイザ  
 やさまの言葉の通りでこざつた。

「荒野に叫ぶ声ぞする。

『我<sup>われ</sup>らが御<sup>おん</sup>あるじなる神さまの  
 御成道<sup>おなりみち</sup>をば切り開き、

そのお通り道をば直<sup>なお</sup>くせよ。

5 谷はすべて埋められて、

山も丘も低くされ、

曲つた道は真つ直ぐに、

石ころ道は平らにされる。

6 そして、人は皆

神さまの救いにあずかる。』

7 ヨハネは、お水を潜<sup>くぐ</sup>らせていただこうと集ま  
 つて来た人たちにいつもこう言い続けてこざつた。

「おぞましき」蝮まむしの子らよ！ 天罰まさに下らんとす！ なに、何とか逃げられようきなどと、誰がうぬらに教えたか？ 『8 ああ、あの者は心を切り換えたようだな』と思われるようにしてみせろ。

「さも偉いそうに」『われらの御先祖はアブラハムさまだ』などと言こと挙げするな。言っておくが、アブラハムの子孫など、神さまはその辺りの石ころからでさえいくらでもお造りになることがおできなのだ。

9 鉞まさかりは既に木の根元に置かれてゐるぞ。よい実を結ぼうとしない木はみな切り倒されて火にくべられる。」

10 そこで、集まつた人々がヨハネに聞いたことは、

「では、われわれは何をしたらよいものでござりましょう？」

11 それで、ヨハネが言ったことには、

「下着を二枚持つてゐる者は持たない者に分けてやれ。食い物を余分に持つてゐる者も同じにせよ。」

当時、衣類は高価なもので、庶民は大概着たきり雀すずめだったのでござる。

12 「人からは蛇蝎だかつのごとく嫌われる」貢みつぎ取とりらもお水を潜くぐりに来て、申すには、

「先生せんせい、わしらは何をしたらようござりましょうか？」

13 ヨハネはこの者らにはこう言つてござる。

「決められた錢ぜにのほかに余計に取り立ててゐるのをやめろ。」

この者らは取り立てる貢ぎの上前をはねて暮しを立てる者どもでござつた。

14 足輕あしやうどもも尋ねて、

「某それがしらは何をなせばようござるか？」

ヨハネは言つた。

「人を脅おどしたり、強請ゆすつたりするな。いただいた扶持ふぢで満足していろ。」

洋の東西を問わず、押しこみ強盗は戦国の世の武士の習い。これもまた、当時の兵卒どもの悪しき習いにて、民はこのためにいたく迷惑していたものでござる。

15 お助けさまの来る日をずっと待ち焦がれていた国民は、心の中で、「もしかしたら、ヨハネさまこそは

難儀の中に喘ぐわれらイスラエルの民を救うべく神さまから遣わされるという

あのお助けさまではあるまいか？」と思つていたのでござる。16 そこで、ヨハネは皆に答えて、かく言い聞かせてござる。

「確かに、わしはそなたらにこうしてお水潜りをさせている。だが、やがてわしよりもつと力のあるお方が来なさる。わしなどはそのお方の草鞋の紐を

解いて差し上げる身分でさえない。そのお方こそはそなたらに、神さまの尊き御息と、「要らないものを焼き尽くす」火の中を潜らせてくださる。17 手に箕を持つて、小麦打場の小麦を選り分け、小麦は倉に取り納め、粃殻は燃え尽きぬ火で焼き払う。」

18 このような具合に、ヨハネは皆に善きことを勧めつつ、畏き便りをささぎま説き聞かせていたものでござつた。

#### 一四・ヨハネ投獄さる

参照 マタイ 14 3-4、マルコ 6 17-18

19 ところで、「ガリラヤの守兼ペライアの守」ヘロデ・アンティパスの殿がその「腹違いの」兄君「①フィリッポ殿」の奥方ヘロデアス御前からみの芳しからぬ所業を初め、さまさまの非道の振舞いの絶えざるによつて、ヨハネはこれを厳しく指弾致してござる。20 そこでヘロデ殿はそれまでの悪行の上にさらにも罪を積み重ね、ヨハネを牢獄にぶち

こんだのでござった。

# 一五・イエシューさまがお水を潜る

参照 マタイ 3 13-17、マルコ 1 9-11、ヨハネ 1

29-34

21 さて人々こぞりて「ヨハネのもとで」お水潜りをさせてもらつていた時分に、

草深きガリラヤの山里からやって来た一人の壮者がござった。これぞすなわち成人なされしイエシューさまでござる。そして

イエシューさまもまた「ヨハネから」お水を潜らせてもらつたのでござる。

その折りのこととござる。イエシューさまが神さまのお声をばお聞き申さんものと一筋にその心を澄ましたところ、「御覧あれ！」天空に大いなる

口開き、22 神さまの尊き御息が、鳩のごとき体を持つたお姿を取りてイエシューさまの頭上に降りたまひ、さらには天にお声があつて、かかる御言葉をたまわつたのでござる。

「そなたこそ我が愛しき子、げにもげにも我が喜びなれ！」

# 一六・イエシューさまの御先祖

参照 マタイ 1 1-17

23 かくしてイエシューさまがいよいよそのお仕事にお手をお着けなされたのは、御年三十歳ばかりの頃でござつたが、世間ではイエシューさまはヨセフの息子だと思われていたのでござる。

その

系譜をたどれば、

ヨセフの親は、エリ、

皇帝ティベリウス陛下がローマ帝国全体の支配者となってから15年目のこと。つまり、ポンティオ・ピラト閣下が皇帝の代官として、イエス様の故郷にあったユダヤに派遣されていた時のこと。

ピラト閣下の監視の下で、ユダヤは四分割され、四人の「テトラルケース（四分の一王）」によって統治されていた時のこと。つまり、イエス様の故郷ガリラヤがヘロデによって・イトウライアスとトラコーニティドスがヘロデの弟のフィリッポによって・アビラ地方がリュサニアスによって、それぞれ支配されていた時のこと。

神殿ではアンナスとカイアファが大祭司であった時のこと。

神様の言葉がヨハネに下りました。このヨハネは、日本で言えば「宮家」に当たる神殿の高い身分の家の人で、ザカリアの息子でした。ヨハネは人の住めない「荒野（あらの）」と呼ばれる場所にいました。ヨハネはそこから、ヨルダン川の流域全体に出て行き、「罪の赦し」を与える「鎮目の儀式」に与るようになり、人々に訴えました。それはまさに、旧約聖書のイザヤ書に以下の通りある通りでした。

荒野で叫ぶ 声がする。

聖書の神が お通りなさる。

お通りなさる 道を備えよ。

全ての窪地は



平らになって

全ての山も

すべての丘も

低くなる。

曲がつたものは

まっすぐに

荒れ果て破れた道路もすべて

きれいに整備　しなおされる。

そうしてついに　人みな全て

神の救いを見るであろう。

ヨハネの訴えは、人々に届きました。有象無象の人々が、彼のところにやってきました。「鎮目の儀式」を受けようとしたのです。しかしヨハネは言いました。

蛇という　悪魔の化身の　子どもたち。

誰が語って　教えたか。

神の怒りを　うまく逃れる事ができると。

救いを得たくば　聞くがいい。

心を入れ替え 新しくなり

新しい実を 稔（みの）らせよ。

自分のことで 言おうとするな。

「我らの父祖は アブラハム」と。

あらかじめ

しっかり言って 聞かせよう。

石ころの 一つを取って 声をかけ

「アブラハムの子」を作り出すのも

神の御手。

今や見よ 斧はすでに 置かれている。

邪魔な樹木を 切り倒すために。

良い実を結ばぬ 木はすべて

切り倒されて 薪（まき）にされ

火にくべられて 燃やされる。

集まってきた有象無象の人々は、驚き怯えて訊（き）きました。「私たちは、どうすればいいのですか？」

ヨハネは答えて言いました。

下着を二枚 持つ者は

そのうち一つを 手放して

下着ひとつも持たない者に

気前よく あと腐れなく

あげてしまつて忘れてしまえ。

食べ物「明日の分だ」とかかえる者も

まったく同じようにしろ。

この世界が壊れ始めている、今のままだと自分たちは危険だと、多くの人が感じていました。それで、その当時、もっとも「成功」していた人ほど、恐怖を感じていたのです。たとえば「徴税人」という人々がいました。この人々は「ローマ帝国の税金」を徴収する係でした。世界最強のローマ帝国軍を維持するために、帝国は各地の住人の中から「徴税人」を募集しました。応募して雇われた人々は、「帝国の徴税人」として、家々を回ります。人々を苦しめ押さえつける軍隊の経費を、人々から集めるのです。当然反発されますが、「帝国の軍隊」の暴力で、すべての反発を押しつぶす。帝国からの徴税ノルマはすべて、簡単に達成できます。ついでに、何割か増しで、おカネを集める。それが、「徴税人」の収入になりました。その収入は、莫大なものになりました。そうして「わが世の春」を謳歌していた「徴税人」は、しかし、この世界の終わりを予感して、恐怖していました。集めた財産に倍する憎しみを、自分たちは集

めていると、知っていたからです。

罪を洗い流す「沈めの儀式」を受けようと、「徴税人」たちもやって来ました。そして「私たちはどうしたらよいのですか」と訊ねます。ヨハネはこう答えました。

あなたには あなたの務めがあるだろう。

あなたの務めの

命じるところを乗り越えて

大きな欲に 流されて

やたらとおカネを集めている。

それを止めれば それでいい。

「徴税人」の背後には、「ローマ帝国軍」が控えていました。世界最強の軍隊です。その暴力は、ユダヤの国の全てを覆っていました。その兵士たちも、不安になっていました。どんな犯罪行為も、自分たちは許される。すべての人が、どこまでもおとなしく従っている。その様子とは裏腹に、激しい怒りが燃えている。その怒りはマグマのように、いつか噴き出す時を待つ。その様子は、現場の軍人に、はっきりと感じ取られていたのです。

罪を洗い流す「沈めの儀式」を受けようと、「ローマ帝国軍の兵士」たちもやって来ました。そして「私たちはどうしたらよいのですか」と訊ねます。

ヨハネはこう答えました。

強請（ゆす）りたかりの類をやめろ

無花果（いちじく）の実を

見せつける愚かな真似は

金輪際もう やってはいけない。

勤めの対価は 定まっている。

その報酬で 満足すること。

足るを知り まっとうに暮らせ。

この時代、たくさんの種を孕む無花果（いちじく）の実は「豊穰」のシンボルでした。「こんなに武器があるのだぞ」と脅して保つ「抑止力」のウソを、ヨハネは「無花果の実を見せつける」と言ったのでした。

このようなヨハネの言葉に、有象無象の人々はみな、驚き感動しました。そして心の中で語り合ったのです。「この人こそ、キリストと呼ばれる救世主ではないか。」

そうした人々の思いを知り、ヨハネは答えて言いました。

確かに私は この川で

すべての罪を 水に流して

救いを告げる。

しかし 私のすぐ後に

はるかにすごい 人が来るのだ。

私はその人の 奴隷になって

サンダルを紐を解き 足を洗う

そんなことすら 恐れ多くて

できたものではないのです。

その人も

あなたに「沈めの儀式」をなさいます。

ただしそれは、

神様の息と炎でなさるのです。

その手には箕（み）がある。

小麦の散らばる 脱穀場で

彼は小麦を掃き集め

箕に載せ選り分け 選別し

倉に納めて蓄える。

残った殻は 集められ

消えない炎で 焼き尽くされる。

ヨハネは実に多くのことを語り、人々に良い知らせを伝えたのでした。

「テトラルケース（四分の一王）」であるヘロデは、このヨハネに悩まされていた。その妻ヘロデアとの道義的な問題があったのです。すべての人が口をつぐんで「見ないこと」にしていた問題を、ヨハネは指弾し責め立てました。多くの人が、その厳しい声を聞いていたのです。この妻ヘロデアは、ヘロデの弟の妻でした。ヘロデはこの結婚のことで悪事を働いていたのですが、さらにそれに加えて、悪事を働きました。つまり、ヘロデはヨハネを牢屋に閉じ込めたのです。

## 荒野の洗礼者ヨハネ

(ルカ福音書三章一—二〇節)

そのころ、荒野で、ザカリヤの子ヨハネの上に、神の御言葉がくだった。そこでヨハネはヨルダンのすべての地方に行き、罪の許しのために、悔改めの洗礼を人々に説いた。

トマス 儂にゃあ、そのころは誰も洗礼なんか受けていなかっただと思われるんだけどね。ヨハネは人間たちに態度を変えるように、曲がった道を行く代わりに正しい道を行けって、人間たちに洗礼をほどこしたんだと儂は思いますだ。水つてのは十分ではないが、その人たちは態度を変えなくちゃなりませんまいよ。

オリヴィア それが私たちに対する教えなのよ。どうしてって、私たちは洗礼を受けてはいるけれど、みんな利己主義のかたまりなんだから。金持で、他の人間よりもたくさん持つてる人というのは誰でも、自分の富を分かとうとはしないんですからね。そんな人間は人に物をやろうとしないどころか、何が正しいかってことだっているに量<sup>はか</sup>ろうとはしないんですもの。私たちが受けた洗礼は、ただ水による洗礼に過ぎなくって、こんなものなのよ。それは悔改めの洗礼じゃあなかったんだわ。

お金持たちは、自分たちの子供をむしろ他の誰よりも先に、生まれてすぐに洗礼を受けさせたがるものよ。彼らがそれができるのは、ただ彼らがお金を持っているっていうことなの……そしてその後では、おいしい食事や飲物で大したお祝いが行われるのよ。

フェリクス 今では、子供たちは誕生の直後に洗礼を受けることになっているけど、彼らはそれについての理解力もなければ、何も知っちゃあいない。洗礼を受けなかった子供を洗礼を受けた他の子供と較べたって、違ったところがないってことは、きみたちだって解っているだろう？ しかし、神が洗礼者ヨハネにそのように命じられたんだ。成人した大人には理解力があるんだから、彼らに洗礼を授けるようにって。ヨハネは彼らに、彼らがなさなければならぬことを言った。そしてその人々は、それらすべての意味していることを理解したに違いないんだ。現代では違うんだな。現代では子供が洗礼を受ける。以前とまったく同じように。大抵の両親は、子供に神の道を示すことにあまり興味を持っていないんだ。そして両親がその子供になんの知識も与えないとすれば、その子は洗礼を受けなかった子と同じ程度にしか神について知らないことになる。しかし、神がヨハネに人々を教化するようにと命じたように、現代だって両親も彼らの子供に神の道を示す義務がある。

誰かが言った。——そしてヨハネは、自分の態度を変えた最初の男だった。

他の男。——俺は、ヨハネが自分の態度を変えたとは思わねえ。ヨハネは生まれた時から、神に遣わされた男だった。

テレシータ（幼ない息子を抱きながら）。——まさにヨハネが洗礼を授けるため、人々に説教する

ために遣わされたんで、あのころの教会の僧侶になるために遣わされたんじゃない、ってことは興味深いことね。

それは、預言者イザヤの言葉の書に、書かれている通りに行われた。「荒野に呼ばれる者の声がする。主の道を準備し、その小径<sup>ミチ</sup>を正しくせよ」。

フェリベ ヨハネはいつも砂漠にだけ居たのかな？

私は言った。——《砂漠》という言葉は、ただ単に誰もあるいはほんの僅かな人しか住んでいない人里離れた場所を意味しているに違いない。私たちが今日、ニカラグアで《山の中》と言うのと非常に似ているんだね。（この場所ソレンチナーメも人々から《山の中》と呼ばれている。山なんかまったくないにもかかわらず、ただ単にここには少しの人々しか住んでいないからなんだ。）つい最近、ある洞穴から古文書が発見され、その古文書から明らかになったことは、この地方にはエッセネ派の信徒と呼ばれる、非常に敬虔な宗派の共同体、あるいは修道院があったということだ。きつと洗礼者ヨハネもこの人々の許に生きていたことだろう。（イエスも荒野に引き籠もられる時には、しばらくこの共同体で生活していたということも考えられる。）しかし、このエッセネ派の人々は、ヨハネが孤独になるために《荒野》に行つたのに対して、世俗と関わりを持ちたくないのでも引き籠もって暮らしていたのではなく、そこから町に出かけて行って彼らの使命を説くためだったんだね。

すべての谷は埋められ、すべての山と丘は平らにならなければならない。

オリヴィア 私はそれができるのは、皆が平等な社会においてだけだと思うわ。資本主義が克服されれば、皆はまったく平等に暮らして行くことができるのよ。

ウィリアム そうだ、私も、ここで話題になっているのは、社会の平均化、だと思う。預言者イザヤは、このような図式で説明しようとした。ひとりの男——ヨハネ——が来て、救世主<sup>メシア</sup>の到来を準備するために平等を説く。今日、私たちは同様な理念を拓めるために、どれほどより多くの足場を持っていることだろうか。というのは、救世主はもうすでにこの世に行らしているんだし、私たちはキリスト教を生きようとしているんだから。「すべての谷は埋められ」という言葉は、もはや貧しい人間が存在してはならないということを意味し、「すべての山は平らになさなければならない」ということは、贅沢な享楽生活もあつてはならないということなんだ。

人は皆、神の救いを見るであらう。

マリータ 私たちがこんな平等に達した日には、すべての人が神の解放を見ることになるでしょう。私は、この言葉は、私たち皆にとっても、いつも今日的なものである<sup>アクチュアル</sup>のだと思うわ。

ラウレアノ、ここソレンチナ・メの僕たちだって、『山の中』であるいは『荒野』で説教して、僕らは思うんだけど。

さてヨハネは、彼からその洗礼を受けようとやって来た人々に、こう説教した。「お前たち、腹黒き人々よ、近く来る懲罰の裁きから逃れることを、誰があなたたちに教えたのか？ 悔改めの結実を見るように振舞うがよい」。

私は言った。——ここで福音書は、『心の変化』の限りを意味する *metanoia* というギリシア語を使っている。この言葉はそれより以前には、大抵『贖罪』と翻訳されていたんだね。しかし今日では、この表現は純粹に宗教的な意味に考えられるので、新しく『悔改め』とか『態度を改める』と翻訳した方が好ましいね。

フェリペ それは基本的なことだ、エルネスト。僕は人はその心が、そのすべての行いおこなに現われるまで、心を改めなければいけないと思うんだ。人々は自分たちの罪を赦ゆるしてもらうために、ヨハネに洗礼を頼んだ。だけど、ヨハネの使命は、彼らが改まったことが解るほどに社会を変えることだった。だが、人々はたんなる儀式を求めていたんだ。

フェリクス 彼らは洗礼を受けることができたけれど、相変わらず利己主義者エゴイストのままだった。だからヨハネは彼らを腹黒い人々と呼んだんだ。彼らは、みんなが行く、そうすることが流行はやっていたか

ら、ヨハネのところへ行っただ。

ザビーン 彼らは、ここであの有名なインチキ野郎のナンドーの所へ行くように、ヨハネの所へ出かけたんだ。ニカラグア中の連中が彼奴の所へ行っただ。するとナンドーは彼らに一瓶の水と二、三個の木の実の殻を渡す。……そんなふうに、この時の人々もちょっとした水を求めただ。

「われわれの父にアブラハムが居る」と言うな。なぜなら、私はお前たちに言うが、神はこの石からだって、アブラハムの子孫を起こすことがおできになるのだ。斧きりはもう木々の根ねもと本に置かれている。すなわちよい実を結ばぬ木は、みな切り倒されて、火に投げ入れられるだろう。

オリヴィア ヨハネが言いたかったことは、彼らがアブラハムのような優れた人間から出たものだから、それだけで彼らもう聖なる民族だと考えたりしてはならないということね。だから、彼らはもう救われるにきまつているなんて、考えてはいけないということでしょ。つまり、実際の正義から、彼らはまだまだ遠く離れたところに居る。

アダーン 現代だって、自分は教会に所属していると自負し、ミサにも行き聖体も拝受し、その子供たちに洗礼を受けさせ、そんなことすべてのことをやっている人々にも同じことが言えるよ。彼らとその態度を変えなければ、そんなことのすべてはまったく意味がないのに。そんな人たちだって、腹黒き人々にあたるよ。

パブロ 少なくとも、全ニカラグア人の九五パーセントの人々がキリスト教徒だと称している。だが、そんなキリスト教信仰は、それだけで顕<sup>ア</sup>きの石なんだ。

グロリーア よい実を結ばない木は、隣人のために何もよいことをしない人ね。果実というのは活動のことなのよ。他の人々のためになることをする活動ってことを、私は言いたいわ。

そこで民衆がヨハネに尋ねた。「一体、私たちは何をしたらよいのですか？」ヨハネは答えた。「二枚の上着<sup>うわぎ</sup>を持っている人は、持っていない人に分けなさい。何か食べ物を持っている人も、何も持っていない人に分かち与えなさい」。

ラウレアノ もし、ヨハネがそう言ったとしたら、きっとこれらの人は金持だったんだ。もし彼らが貧しかったとしたら、彼らは他人に分かち与えるべき二枚目の上着なんか持っていないんだから。

フェリペ ヨハネは貧しい人間たちにも、こう言ったと、僕は思うな。彼は、同胞の誰をも飢えのために死なせたりはしない、という意識を持たせたかったんだ。僕は、これらすべてのことは社会主義の基本的な教義だと考えている。ヨハネは、このような社会こそ、僕たちが創らなければならぬ社会だっことを僕たちに言っているんだ。誰も他の人より多くのシャツを持つべきではない……僕たちは皆、平等であるべきなんだ。そして僕たちは、この社会主義を実現させようとやってみなければ

ばならない。なぜなら、そうしてのみ、僕たちは神が欲したように正しく生きることができると。

マノロー 二枚のシャツを持っている人が一枚は分かち与えなければならぬとしたら、何軒も家を持ったり、いくつもの地所を所有していたり、百万ペソも持っている人たちにとっては、それはどんなことになるのだろうか……

ウィリアム 私はこの箇所のすべては、そんなふうに言葉通りに理解されるべきではないと思う。

もし私が二枚のシャツを持っていたら、私は一枚を人に与えなければならぬ。……それはよいことだし、素晴らしいことだよ。しかし、その場合、私たちはただ立つてはならないんだよ。つまりしゅちゅう、シャツを持っていない男を探して歩かなければならない。私の思うところによれば、むしろヨハネは、誰かひとりの男が有り余るほどのシャツを持っていて、他の男は一枚も持っていないというような体制を変えるべきだ、ということの意味していることになるんだが。

私は言った。——この言葉は、ラウレアノが気づいたように、とくに裕福な人々に向けられたものなんだね。多くのシャツを持っているだけではなくて、家も土地も工場、鉱脈、鉄道を持っているすべての人々にね……だが、それはまた、フェリペが言ったように、たとえば、農夫がその畑で十分なものを持っていたら、彼の昼食<sup>もようじき</sup>をもうひとりの人間に分かち与えよ、と貧しい人々に向けられた言葉でもあるんだよ。

アレフアンドロ 自分の食物を友だちに分けるなんてことは、簡単なことだ。遙かに困難なのは、あらゆるものを、自分の知らない、つまり社会の他のすべての人々と分かち持つということなんだ。

フェリクス 僕はこの言葉は皆、金持たちにとりよりも、むしろ百姓に向けられているんだと思う。金持たちは彼ら同志では助け合っているじゃないか。すべての人間が金を持っているんだから、いつだってそれができる。もし或る金持が、彼の階級に属する男に出会って、そいつが偶然シャツを持っていなかったら、その男が彼に頼むまでもないこと、彼は即座に一枚をその男に与えるだろう。彼らは仲間内では団結しているんだ。もし貧しい男が、他の貧乏人が何かを持っていないことを小耳にはさんでも、その男はけっしてそれを利用しようとはしないだろう。だから、このシャツのたとえが選ばれたんだ。ということは、僕たちのこと、貧しい百姓のことを言っているんだ。僕は、僕たち貧乏人は金持よりも利己的だって考えている。僕たちは、福音書は金持よりも貧乏人のために書かれた、と言っているけれど、違うんだ。福音書はほとんど、それ以上に僕たちのために残されたんだ。金持たちの利己主義はただ、金を持っていけないからというので、貧乏人たちとともに事を起こそうとしただけなんだ。

オリヴィアが遮った。——じゃあ、あんたは一体、どれだけ利己主義だって言うのよ！

フェリクス そうだ、その通りだよ。しかし、僕は貧しいから、貧しい友だちを求めなければならぬんだ。僕は言いたい、僕たちは時々、金持たちよりも利己的だよ。金持たちはその仲間うちじゃあ、いつも喜んで助け合う用意があるさ。彼らの利己主義はただ貧乏人だけに向けられているんだ。

ウィリアム 彼らは血の最後の一滴まで闘い合っているさ。商売となれば、彼らは他の人間たちを破壊させようがどうが、どうでもいいんだ。

フェリクス そうだ、そうだ。一番いいのは、僕たち皆が平等だったってことじゃないのか。しかし、洗礼者ヨハネの言葉は当時は、今よりもずっと受け入れられることが少なかった。

フェリオ・マイレーナ ヨハネが言っているすべてのことは、僕たちにも当てはまる。僕たちは皆、多くのものを持っている人から、何かを奪い取るという闘いには力を尽くすことができる……そのう、すべてを平等にするためならね。

ナターリエ 人間って、時に他人に対して何の信頼感も持っていないことがあるものよ。もし、私に何か、洋服なり食べるものがなかったとしても、おそらく私はそれを他の誰かに安心して打ちあけることはできないでしょう。だけど、こんな信頼感があれば、人々もお互いに助け合えるわね。もし誰かが私に、ナターリエさん、私にはこれかあれが必要なんですって、言ってくれたら、そうしたら私は、ここに在るわ、持っていっちゃいよ、って言うでしょう。でも、もし信頼感がなかったとしたら、もしかすると私は気がつかないかも知れない。その人がちょっとばかりのお塩とか、僅かばかりのお砂糖に困っているってことにもね……でもそういう人たちが、私に言ってさえくれたら、私も私の持っているものを分かち与えるわ。

フェリクス 僕たちがお互いに十分に愛を持っていないから、信頼感に欠けてしまふんだ。もし、ひとりのキリスト者がその愛を実際、行為にまで移すのを僕が見たら、そしたら僕もためらわずにその人の好意に縋るだろう。彼に言うだろう、僕にはこれかあるいはあれが足りない……と。

きょうは、町から来たご婦人が私たちの集まりに加わっていた。その人が言った。——でもあなた

方は、一度でも考えてごらんになったことがあるかしら？ 或る人たちはより多く働いたから、他の人々よりも恐らく多くを所有している。彼らが持っているすべてのものは、自分自身の力で手に入れたんだってことを。働かないで、誰かが何かを与えてくれるのを期待している人々だっているわ。

フリオ・マイレーナ 僕たちは一日中働いているよ。僕たちは鉋なを振ってクタクタなんだ。働かないのは金持の方だ。

トマス 氣をつけなきゃいけないえだ。僕だってまったく同じことでさあ。僕が二枚目のシャツを持っていて、誰か他の男が怠け者で、働こうとしねえのを見ただったら、其奴に一枚をやるうなんてしねえだ。だけんどこの村のここに居る者はみんな働いているだ。もし、ひょっとして僕が酒呑みで、働かねえんだったら、他の者は僕を横目で見て、誰だって僕に何も悪んではくれねえだ。ひょっとして、二人や三人ののらくら者が居たことがあるかもしれねえ。だけんどそんな人間はここにゃあ、長く居られねえだよ。ここじゃあ、みんなが働いてるだ。

フェリクス ここで働かないものは、飢えるんだ。重労働をしても決して豊かにはならず、幾千もの困難を乗り越えなくては……。それが働かない人間となりゃあ、一体どうなるっていうんだ！

税吏も、洗礼を受けに来ていて、「先生、私たちはどうすればよいのですか？」とヨハネに尋ねると、彼は彼らに言った。「法の命ずるところ以上のものを取ってはいけない」。

テレシータ　じゃあ、その法律は恐らく公正なものだったのね？　なぜ、ヨハネは彼らに法律に従うべきだと言って、法律に従順であってはいけなと言わなかったのかしら？

私は言った。――ヨハネはただ、税吏は掠め取ってはならないと言っただけなんだ。それは無条件にヨハネが法律を承認したことを意味しているわけではない。この法律が効力を持っている限りは、っていうことなんだ……

ラウレアノ　税吏は革命家ではなかったんだから、ヨハネはこういう訓戒を与えたんだろう。もし彼らが革命家だったとしたら、ヨハネは彼らに、法律を軽んずべきだと言ったと思う。彼が当局に背いていたら、ヨハネ自身は殺されただろう。

また二、三の兵士たちが彼に尋ねた。「私たちはどうすればよいのですか？」すると彼は答えた。「人に暴力を振ったり、不正をなしたりしてはいけない。そして自分の給料で満足しなさい」。

ひとりの男が言った。――よい忠告だ。もうこの時にもすでに国家の親衛隊や、間違った情報を流して歩くような人間たちが居たんだろう？　彼奴らがわれわれのところに送り込むあのマリオのような秘密警察や密偵が、おっと、まだオマリなんて言わなかったかも知れないが……

他の男。――そうだな、今、サン・カルロスの司令官がここに、俺たちの教会にやって来て、一体何をすべきかと尋ねたとしたら……

私は言った。――軍隊や国家親衛隊の内部にだって、自分を変えたいと欲し、新しい道を求めている人々だって居るかも知れないんだよ。ヨハネのところにやって来たこの兵士たちとまったく同じようにね。そして彼らにも希望を与えなければ……

「私は水であなたたちに洗礼を授けるが、私よりも力のある方がおいでになり、その方は聖霊と火とであなたたちに洗礼を授けて下さるだろう」。

オクタヴィオ 聖霊というのは智恵のことだ。

フェリオ それは隣人への愛なんだ。

グローリア 火だってまた、愛なのよ。

エドアルド 火は辺りを照らし、温めるからね。

テレシータ そしてまた、消毒もするわ。

その方は手にシャベルを持ち、そのシャベルで粗穀もぐから麦を分けて下さる。彼はその麦を穀物倉に集めるが、粗穀は消えることのない火で焼いておしまいになるだろう。

フランシスコ 粗穀というのは、利己的な人間のことだと僕は思う。つまり、空っぽで、隣人への愛

を持たない人間のことだ。麦というのは、他の人々のために生きている人間のことだ。麦は食料として役に立つ。だから麦は貯蔵される。穀殻は空っぽで、誰をも養<sup>やしな</sup>いはしない。だから捨てられるんだ。アレファンドロ それは他の者に役立つものと、役に立たぬものとの分離なんだ。役に立たない物は、貯蔵される必要もない。人類は善良な人間と邪悪な人間、つまり愛する人間と愛さない人間に分けられる。

テレシータ 私たちが麦になりたいか、穀殻でいたいかは、私たちにかかっているのよ。誰かが役立たずだったとしたら、その人がそう欲した以外の何物でもないのよ。最後に、なぜ、洗礼者ヨハネが投獄されたのかを見てみましょう。

分国王ヘロデは、その兄弟の妻であるヘロデアと共に寝たことと、彼がなした多くの悪事についてヨハネに訓戒された。

マノロ ヨハネはヘロデの不貞を非難しただけでなく、彼の王政やその他すべての犯罪をも咎めた。ヨハネはヘロデの行爲を見過<sup>み</sup>ごして、悔改めを説くことができなかったからだ。

フェリベ わが国の僧侶や司教たちが、この国で起こっていることのすべてについて、慎重に沈黙を守っているのは、政治とはなんの関わりも持ちたくないからだと言っているけれど、それなら彼らはまったく福音書のこの例には当て嵌らないんだな。

町から来たご婦人。——あなたたちは、人々がヨハネを捕えて、処刑してしまわなかったとしたら、ヨハネは人類に有益だったとは信じていないのね。

テレシータ ヨハネが誰にも何も言わなかったとしたら、彼は何もよい影響を与えることはできなかったでしょうね。殉教者は皆、生きていても、とても有益な人たちでしょう。けれど、彼らは殉教者という彼らの特性によって、人類にとってはもっと有益なんですよ。

フェリペ ヨハネはその死によって、生きて彼が成し遂げることができた以上に、彼の使命を強調したんだ。